

## 知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in帝京大学 開催結果

1	日時	令和6(2024)年6月19日(水) 午後1時30分～3時
2	場所	帝京大学宇都宮キャンパス 地域経済学科棟1階 大講義室
3	出席者	参加者152名(男性126名、女性26名) 県側出席者：知事、総合政策部長、政策調整監
4	発言数	13件(うちアンケート2件)

### 主な発言事項及び発言者

No.	発言事項	関係部局
1	栃木の魅力、ブランドについて (アンケート)	総合政策部
2	教育面で特に推進していきたいことについて (アンケート)	教育委員会事務局
3	不登校対策について	教育委員会事務局
4	栃木の生乳について	農政部
5	鬼怒川温泉の一部施設の廃墟化について	県土整備部
6	しもつかれのPRについて	総合政策部、生活文化スポーツ部、農政部
7	e-sports振興について	生活文化スポーツ部
8	少子化対策について	総合政策部、生活文化スポーツ部、保健福祉部
9	JR宇都宮線の減便について	県土整備部
10	都道府県の推しポケモンについて	総合政策部
11	公務員試験について	人事委員会事務局
12	渋滞対策について	県土整備部



# 知事と語ろう！とちぎ元気フォーラム in 帝京大学 発言及び回答要旨

区分：大学生版 開催日：令和6(2024)年6月19日(水)

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
1	栃木の魅力、ブランドについて	アンケート1位 (地域経済学 科2年)	栃木県の最大の魅力は何か、逆にあまり知られていない魅力は何か。また、魅力度を高めるためにどのような取り組みを行っているか。栃木ブランドについて、他の県と比較してどのようなところを強みとしているのかについて伺う。	<p>回答者：知事</p> <p>本県にはよいところがたくさんある。例えば世界遺産の日光の社寺に代表される優れた歴史文化が挙げられる。国宝の数は17点あり、47都道府県で10位となっているほか、県及び国指定の重要文化財は1300件で11位。都が置かれたわけではないのに、歴史文化に恵まれている、それが栃木県である。</p> <p>一方、農産物等に関しては、いちごの生産量が55年連続日本一のいちごの県、いちご王国であるし、食べ物では宇都宮餃子が有名。さらには生乳の生産も北海道に次いで第2位。そこでできたチーズなどもブランド化している。それから生産量全国2位の二条大麦を使った地ビール、クラフトビールについても全国で最も美味しいビールという評価をいただいている。</p> <p>こうした本県の魅力をInstagram「とちぎきぶん」や公式ファンサイトを活用して内外へ発信しており、今年度新たに人気ブロガーの「えむふじん」を活用したプロモーションも実施している。この他、栃木にゆかりがあり、さまざまな分野で活躍をしている、建築設計分野の隈研吾さん、ジャズミュージシャンの渡辺貞夫さん、U字工事のお二方、大島美幸さん、井上咲楽さん、ダイヤモンド☆ユカイさんといった、とちぎ未来大使の方々に県産品の感想をSNSで発信してもらい、栃木の良さを全国の方々に知ってもらうような取り組みも実施している。皆さんには、栃木にいるあいだ、そして栃木を離れてからも、栃木の顔となり、栃木の良いものを広めていただくことを心から願いたい。今後もさまざまな場を活用して栃木の魅力を国内外に発信し、栃木ファンを獲得して参るので、お力をお貸しいただきたい。</p>	総合政策部 デジタル戦略課 (ブランディング推進室) TEL:2825
2	教育面で特に推進していきたいことについて	アンケート2位 (地域経済学 科2年)	教育の面で特に推進していきたいことは何か。また教育内容や方針について近年取り入れたものと今後取り入れたいと考えているものは何かについて伺う。	<p>回答者：知事</p> <p>県では、「とちぎ未来創造プラン」において人材育成を重点戦略の一つとして掲げており、可能性を伸ばす教育の推進などに取り組んでいる。私も、教育委員会との教育行政推進の議論等のために設けられた総合教育会議の場を通じて、さまざまな課題に対する認識を共有するとともに、より一層の連携強化を図りながら、とちぎの未来を担う人材育成に積極的に取り組んできた。</p>	教育委員会事務局 教育政策課 (教育DX推進室) TEL:3360

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
				<p>県教委では、子供たちが社会の主体的な創り手として資質・能力を身に付けられるよう、ICT活用も図りながら、児童生徒の学力向上や教科横断的な学びであるSTEAM(スチーム)教育などの探求的な学習活動の充実に取り組んでいる。</p> <p>また、子どもの置かれた状況が多様化・複雑化する中、今後は誰一人取り残さない教育を実現するため、不登校対策の充実、インクルーシブ教育システムなどの取り組みを一層推進していくこととしている。</p> <p>引き続き本県の子供たちが、自分の目指す未来を自ら描いて、予測困難な時代を逞しく生きていくことができるよう、教育委員会と緊密な連携を図って教育の更なる向上に取り組んで参る。</p> <p>なお、STEAM教育については、現在、宇都宮北高校、栃木女子高校、真岡高校、黒磯高校で実践研究を行っているし、ICTの活用については、昨年度、教育CDOを任命し、県内の学校や町町教育委員会を訪問しながら、現場の課題解決に向けた助言、提案を行ってもらっている。</p> <p>また、不登校対策についても、不登校総合対策推進事業を新たに実施して取り組んでいるほか、インクルーシブ教育についても、発達障害のある児童に対する個別指導計画に基づいたインクルーシブ教育指導員を小学校をモデル校に配置するなどする取り組みを進めている。</p>	<p>学校安全課 (児童・生徒指導担当) TEL:3358</p> <p>義務教育課 (指導担当) TEL:3390</p> <p>高校教育課 (指導担当) TEL:3382</p> <p>特別支援教育課 (インクルーシブ教育推進担当) TEL:3428</p>
3	不登校対策について	地域経済学科 2年	不登校対策推進事業を進めているとのことだが、具体的にどのような対策をしているのかについて伺う。	<p>回答者：総合政策部長</p> <p>県教委ではこれまで各学校にスクールカウンセラーを配置するなどして、相談体制の整備や校内研修などを充実させてきた。また、研修会等を実施し、教員の指導力向上にも努めている。</p> <p>不登校児童生徒数は、前年度と比べて増加するなど、教育委員会としても大きな課題として捉えていると聞いている。今年度は、児童生徒に対する「心の健康観察アプリ」の試行導入や意識調査等を実施し、その結果等を活用しながら、外部有識者にも見ていただき、今後の不登校対策の方向性について検討していく試みを始めたところである。</p> <p>次代を担う児童生徒が抱える問題は、県全体にとっても大きな課題であるので、教育委員会とも連携を図りながら、不登校対策に努めていきたい。</p>	<p>教育委員会事務局 教育政策課 (教育DX推進室) TEL:3360</p> <p>学校安全課 (児童・生徒指導担当) TEL:3358</p> <p>義務教育課 (指導担当) TEL:3390</p> <p>高校教育課 (指導担当) TEL:3382</p>

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
4	栃木の生乳について	地域経済学科 2年	栃木県は餃子やイチゴは有名だが、それと比較して生乳が2位ということはあまり知られていない。なぜ生乳にはあまり力を入れていないのかについて伺う。	<p>回答者：知事</p> <p>生乳の生産は北海道に次いで2位、本州では1位となっており、その産地は酪農家が多く、酪農地帯である那須塩原市、那須町、大田原市などとなっている。ただし、2位とはいえ、北海道の生乳生産量から比べると、本県はその1/10ぐらいである。</p> <p>現在本県で生産されている生乳は、大手乳業メーカーなどに引き取られて牛乳になり、スーパー等で売られている。さらに、那須塩原、那須の農家の方たちはチーズを生産するなど、付加価値を高めて売るとも行っている。これらのチーズは、最近は航空会社のファーストクラスなどでも提供されるなど、非常に良質で付加価値の高い物となっている。また、チーズを作る過程ではこれまで廃棄していた「ホエー」という物質が生成されるが、若い人たちが興した会社が、このホエーを利用したお菓子を作り、羽田空港などの空港や東京の有名店でも販売されるようになり、捨てるものは何もないという状況になった。</p> <p>なお、この会社は、障害者の方たち等を積極的に雇用し、生活支援を行っている。社会貢献活動をしなが、世界に通用する高付加価値商品を作って、東京で売るとい会社も現れてきたということである。</p> <p>このように、若い人たちの取組もあり、生産された生乳は余すことなく牛乳その他の乳製品、新しい製品に加工されるなどし、本県の乳製品のブランド力は徐々に高まりつつある。</p> <p>回答者：総合政策部長</p> <p>昨今、酪農家は牛を育てるための飼料や、トラクターなど農業機械のための石油などの価格高騰で農家さんが非常に苦しんでいる。県を上げて消費拡大を進めているので、ぜひ皆さんもお昼の時など積極的に牛乳を飲んでもらえるようお願いしたい。</p>	農政部 畜産振興課 (生産流通担当) TEL:2346
5	鬼怒川温泉の一部施設の廃墟化について	地域経済学科 1年	鬼怒川温泉の一部施設が廃墟化しているというネット記事を見た。この問題について地域振興の観点から行っていることや今後行う予定があれば教えてほしい。	<p>回答者：知事</p> <p>鬼怒川の川沿いの一部のホテルが廃墟化しているのは事実である。国も課題意識を持っており、建物の解体費の一部を補助する制度を設けている。</p> <p>しかし、補助率は100%ではなく、残りの一部を日光市が栃木県が負担しなくてはならない。また、川にせり出した建物は、使える土地が建築面積の半分くらいしかなく、こういところに多額の税金をかけて解体しても、費用対効果の面で非常に難しい。さらに、その土地建物の所有者等、利害関係者は複数おり、これら利害関係者に対し、誰が解体の同意を取り付けるのかという課題もある。</p> <p>つまり、解体しても創出される面積が少ないということ、多額の税金を使って解体することについてコンセンサスが得られるかということ、土地建物の利害関係者に金銭を求めたり、求められたりすることなく解体同意が得られるかということ等、これらが全てが満足しない限りは、残念ながら廃ホテルの解体は簡単にはできないというのが事実である。</p>	県土整備部 住宅課 (企画支援担当) TEL:2484

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名（担当）
6	しもつかれのPRについて	地域経済学科 3年	郷土料理の「しもつかれ」をもっと県外に対して発信してほしい。	回答者：知事 日光市では「しもつかれコンテスト」というのを行っており、県でも広報などでPRを行っている。 「ザ・リッツ・カールトン日光」では高級料理の中にしもつかれを使っているなど、これからは高級料理も含めて「そこで取れる物だけで料理を作る」という時代なのだという。 インバウンドが増えていく状況にあって、外国の富裕層の方々も栃木に来て、栃木のものだけを食いたい、というお客さんがどんどん増えてくることが予想される。その地域の物で作った食事を提供するという世の中になってきたので、「しもつかれファン」の思いも大切にしながら、本県も郷土食しもつかれの普及に力を入れて参る。	総合政策部 デジタル戦略課 （ブランディング推進室） TEL:2825  生活文化スポーツ部 文化振興課 （文化財保護担当） TEL:3424  農政部 農政課 （食育・地産地消担当） TEL:2287
7	e-sports振興について	地域経済学科 2年	昨年12月に開催された「とちぎeスポーツフェスタ」はかなり盛り上がっていたが、今後、eスポーツを盛り上げるような考えや企画があるかについて伺う。	回答者：知事 栃木県において一昨年のいちご一会とちぎ国体の際、文化プログラムの一環として初めて「全国都道府県対抗eスポーツ選手権2022」が開催された。私はそのときまでeスポーツはゲームではないかと思っていたが、フォーミュラワンに出場するような選手や一流のスポーツ選手もフィールドで練習しつつインドアでも練習する、両方をやりながら力を蓄えており、その時に力になるのがeスポーツだと聞き、考えを改めた。 本県もこれから積極的にeスポーツのイベント等を開いて参りたい。 また今年12月には宇都宮市内でイベントを行う予定もあるので、ぜひ多くの方に観戦していただいたり、選手として参加していただきたいと考えている。	生活文化スポーツ部 スポーツ振興課 （スポーツ企画担当） TEL:3576

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
8	少子化対策について	地域経済学科 2年	少子化問題についてこれまでどう取り組んできたか、また、これからどう取り組んでいくかについて伺う。	<p>回答者：知事</p> <p>今回の人口動態に関する国の発表によると、47都道府県全てで人口が減少しており、合計特殊出生率は全国平均で1.20、栃木県は1.19であった。</p> <p>少子化対策については様々な取組を行ってきたが、例えば、県では市町への助成を拡充し、全市町で高校生までの医療費を無料化している。</p> <p>また、子育て世帯の経済的負担軽減のため、これまで第3子以降が対象だった保育料の無償化を今秋以降は第2子まで拡充する予定であり、これも保育料を免除する市町に対し、県が助成するやり方で取り組む。</p> <p>これらは、結婚支援、子育て支援、働き方改革の三本柱で取り組む「少子化対策緊急プロジェクト」やこれに関連する事業として取り組んでいるものである。</p> <p>なお、結婚支援では、結婚支援センターでAIを活用するなど少しずつカップルが誕生しているほか、今年は大婚活イベントなども開催することとしている。</p> <p>働き方改革では、11月22日を「とも家事の日」として、男女が共に家事を分担し、家事時間の削減等を図る取組みも行いながら少子化対策・子育て支援を進めている。</p> <p>これらの取組にプラスしてできることについても、引き続き検討を続けていかなければならないと考えている。</p>	<p>総合政策部 総合政策課 (政策企画・地方創生担当) TEL:2206</p> <p>生活文化スポーツ部 県民協働推進課 (青少年応援担当) TEL:3076</p> <p>人権男女共同参画課 (女性活躍推進担当) TEL:3074</p> <p>保健福祉部 こども政策課 (子育て環境づくり推進担当) TEL:3068</p>
9	J R 宇都宮線の減便について	地域経済学科 3年	J R 宇都宮線のダイヤ改正により、減便や一部快速の廃止があったが、宇都宮に住む者としては不便を感じている。県としてどのように考えているか、また、どのようにJRに働きかけているのかを伺う。	<p>回答者：知事</p> <p>ダイヤ改正の件は、J R 宇都宮線だけではなく、日光線や烏山線も該当する。また、本県のみならず、関東各都県でも同様に、ダイヤ改正で不便になったところがたくさんある。</p> <p>県では、各市町に対して、JR東日本や東武鉄道などに対し、改善要求するかしないかを投げかけている。各市町から意見が出てくれば、県が音頭をとって一緒にJR大宮支社に要望に行くこととしているが、今のところ意見集約中という状況である。</p>	<p>県土整備部 交通政策課 (公共交通担当) TEL:2377</p>

No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
10	都道府県の 押しポケモン について	地域経済学科 3年	都道府県の「押しポケモン」と一緒に各地の魅力を国内外にPRする「ポケモンローカルActs」という活動を行っている。栃木県も近隣県と同様に、この取組をうまく活用し、魅力をPRしてはどうか。	後日回答： ポケモンことポケットモンスターは、ゲームやアニメなど、全世界で多くのファンに支持されている大変素晴らしいコンテンツである。 また、地域それぞれの「押しポケモン」が、各地の魅力を国内外に発信する「ポケモンローカルActs」は、多くの人々が各地域を訪れることで、地域とポケモンそれぞれのファンの増加を目指すなど、地域にとっても魅力的な取組であると考えている。 今後、運営会社との各種調整が進んだ際には、ポケモンとともに本県の魅力発信に取り組んで参りたい。	総合政策部 デジタル戦略課 (ブランディング推進室) TEL:2825
11	公務員試験 について	地域経済学科 2年	公務員試験に興味があるが、試験科目が多い一方、あまり人物評価がされていないのではないかと思う。 県や各市町では、いろいろな人材を採用できるよう、人物評価等を行う改革を行っていたり、今後行う予定があるか。	回答者：総合政策部長 少子化により労働人口や労働力が減少しており、公務員の採用・確保にも苦慮している。 20年くらい前の栃木県職員行政職大学卒業程度の採用試験は、年1回のみで、一次試験で教養試験や専門試験、二次試験で面接試験等を行う流れだった。 現在は従来の試験に加えて、早期卒や社会人の試験など複数の試験を設けている。また、早期卒や社会人の試験では、専門試験を課さず、面接を重視するなど、一緒に働きたいと思える仲間を採用していくという流れに変わってきている。 今年度の採用試験案内は、県人事委員会のホームページを御覧いただきたいが、私たちの仲間になってくれる人たちを求めているので、みなさんにもぜひ前向きに考えていただきたい。	人事委員会事務局 総務課 (総務・任用担当) TEL:3313
12	渋滞対策に ついて	地域経済学科 3年	宇都宮市内のバスは時間帯によるが交通渋滞のため運行が大幅に遅れたり、宇都宮駅方面に向かうと予定どおりに着かないことがある。これについて何か改善策や、交通渋滞を緩和する方法等があるのかについて伺う。	回答者：知事 県では、交通系のICカードやバスロケーションシステムの導入、駅やバスなどのバリアフリー化、複数の公共交通の乗り継ぎに対する料金割引を行い、利便性の向上に努めている。 また、公共交通を利用した、環境に優しいエコ通勤を呼びかけるなどして、マイカーから公共交通への転換の呼びかけを強めており、県庁においても実践をしている。 引き続き、交通渋滞を引き起こすマイカーの量を減らして、バスなどの運行がスムーズになるように取り組んでいくが、雨の日や五十日(ごとうび)などには、渋滞スポットが何箇所も出てきてしまうというのが現実である。 今後のLRTの西側延伸に伴い、大通りを走るバスをLRTにおきかえて、フィーダー交通や端末交通も充実させながら、渋滞解消にも結びつけていきたい。 すぐにはできないが、今やっていることにプラスアルファで取り組んでいく。	県土整備部 交通政策課 (公共交通担当) TEL:2377



No.	発言事項	発言者	発言要旨	県回答要旨	関係課名(担当)
13	魅力度ランキングについて	地域経済学科 3年	<p>栃木県は魅力度ランキングで例年あまり良くない成績をとっている。県民として本県は魅力があるところだと思うが、知事としてはなぜあまり魅力度が芳しくないと考えるか。</p> <p>また、トレンドを引っ張る若者にどんどん推して行くべきだと思うが、この魅力度を上げるという観点から、知事や県としてどういう風に対処していくか、その方針について伺う。</p>	<p>回答者：知事</p> <p>本県の魅力度ランキングが下位なのは、東京の後ろに隠れてしまう、というところがその理由の一つとしてあると思う。</p> <p>また、本県には昔、天領という徳川家の直轄領が多くあって、大きな大名がなかったほか、県外の藩が県内に多くの「飛地」の領地を持っていた。そのため、地元(本県)の藩は小さい領地をたくさんつくり、江戸に攻め込まれないように工夫をしたのではないかとされている。このようにたくさんの領地が分散して存在し、一人ひとりが自分の生活をしてきたため、一つにまとまるということが他の県に比べると苦手なのではないかと思っている。</p> <p>加えて、栃木県民は人をかき分けて前に出るという人が少なく、穏やかで、目立つことをしない。これはプラスでありマイナスでもあるが、こういう県民性だからこそ、県民所得4位、いちごの生産量55年連続日本一、そして産業団地への県外企業の立地件数が20件で全国2位等であっても、それらを自慢しない。良いものが多くあっても宣伝しない、当たり前だと思ってしまう多くの方に伝える努力をしてこなかった、ということが今日に至っているのではないかと思っている。</p> <p>県民のみなさんには、「ホラは吹かずに、自慢をして！」とお願いしている。栃木県庁をあげて、各市町と連携をしながら、国内外に積極的に「自慢」をして、魅力度を高めていきたいと考えているので、皆さんにも協力をお願いしたい。</p>	<p>総合政策部 デジタル戦略課 (ブランディング推進室) TEL:2825</p>

※関係課名(担当)欄の電話番号は、栃木県庁028-623-各課共通(4ケタ番号)を記載しています。